

# 頭頸部手術の全ての基本手技を学ぶには、 国立がん研究センター中央病院頭頸部外科へ

## 診療科としての人材育成のポイント

当科は2025年4月現在で医師12名を擁し、全国でも有数の頭頸部がんを扱う施設の一つです。また当科の構成メンバーは様々な医局から集まる混成形式を取っていますが、現在は女性医師、口腔外科医師も含まれ、公平な業務負担と無理のない夜間休日体制による働きやすい職場環境を心がけています。頭頸部がんの診療においては他科の医師や幅広いメディカルスタッフによるチーム医療が必須ですが、当院では関連する多くの科や部署と密接な協力関係を築いています。教育に関しては特に手術手技に焦点をあて、徹底的な技術の習得に加え、所見の取り方、画像診断、患者への説明、術前準備、術後管理など、頭頸部がん手術の周術期に必要な全てを学べるよう豊富な機会を提供しています。さらに全員が頭蓋底から上縦隔までの手術を術者として経験できるように配慮してきました。また、近年では頭頸部領域においては薬物療法進歩に伴い、集学的治療をトータルに学ぶことが重要で、希望者には頭頸部・食道内科、病理診断科、形成外科での研修も可能にしています。



## 国立がん研究センター中央病院頭頸部外科での研修の特徴

- どんな手術にも対応できる基本的な手術器具の使用に関する手技を学べる
- 所見の取り方、画像診断、患者への説明、術前準備、術後管理など、周術期に必要な全てが学べる
- 頭蓋底から縦隔に及ぶ拡大切除症例や経口的切除等の低侵襲手術等、幅広い術式を学べる
- 機能温存にこだわった術式が学べる
- 公平な業務負担と無理のない夜間休日体制による働きやすい職場環境がある

## 国立がん研究センター中央病院頭頸部外科での手術実績について

現在週10-11枠（午前・午後を各1枠として計算）を使わせていただき、2024年の1年間の集計では全麻494件、そのうち遊離皮弁による再建手術は112件となっています。この数は全国レベルでも有数の規模となりました。当院は立地条件が良くネームバリューも高いのは確かですが、当科での治療への評価が定着した結果と考えています。手術の内容で特徴的なのは、近年開頭や鼻副鼻腔の悪性腫瘍症例の手術が増加したことや早期咽喉頭癌に対する経口的切除が増加したことが挙げられます。特に鼻副鼻腔癌悪性腫瘍においては希少がんを積極的に扱うことが当院の使命の一つと考えており、肉腫など多彩な悪性疾患に対して院内を挙げてmulti-disciplinaryに治療を行ってきたことが、これらの患者増に繋がったと思われます。手術件数は以下の通りです。

	2020	2021	2022	2023	2024
開頭による頭蓋底手術	15	12	8	10	8
（うち内視鏡下頭蓋底手術）	3	3	1	1	3
外耳腫瘍手術（開頭手術を除く）	3	3	1	1	1
鼻副鼻腔腫瘍手術	16	12	36	12	16
口腔腫瘍手術	100	125	108	110	131
上咽頭腫瘍手術	0	1	1	0	3
中咽頭腫瘍手術	47	38	33	53	55
（うちロボット手術）				(11)	(34)
喉頭・下咽頭・頸部食道腫瘍手術					
内視鏡手術	3	10	11	7	4
経口的切除	50	71	82	63	88
（うちロボット手術）					(13)
喉頭温存手術	17	15	6	7	7
喉頭全摘を含む手術	38	52	43	38	33
甲状腺腫瘍手術	36	27	38	27	43
副甲状腺腫瘍手術	0	0	0	0	1
耳下腺腫瘍手術	16	23	25	20	19
頭部郭清術（単独）	43	36	64	43	66
その他の悪性腫瘍手術	4	4	5	7	5
副咽頭間隙腫瘍手術	0	0	3	3	3
その他の手術（良性腫瘍、生検、気切、瘻孔閉鎖など）	18	14	8	15	10
全身麻酔手術の合計	406	443	472	416	494
（遊離皮弁による再建手術）	(101)	(118)	(102)	(104)	(112)
局所麻酔手術の合計	56	61	68	52	49



頭蓋底手術風景



ロボット手術風景

## 研修後の進路

	2022年度	2023年度	2024年度
国立がん研究センター（医員、研究員、Physician scientist 等）	0	0	0
大学病院	1	3	2
全国のがんセンター・全がん協加盟施設	0	0	0
市中病院	0	0	0
企業、海外留学等	0	0	0
その他	0	0	0
合計 ※研修継続者、専攻医は除く	1	3	2

## ■ プログラム

### § 推奨するコース

#### ●がん専門修練医コース

研修目的・内容	頭頸部がん専門医取得見込みの方は、最終的な専門医取得に向けて経験を積む。 頭頸部がん専門医取得後は、専門医として更なる経験を積む。
研修期間・ローテーション	2年間：頭頸部外科研修を行う。

### § 副次的なコース

#### ●レジデント2年コース

研修目的・内容	頭頸部がん専門医の取得を目指す。 頭頸部外科および関連診療科を回る。
研修期間・ローテーション	1年目：頭頸部外科に3か月以上在籍する。残りの期間はCCM勤務の他、関連診療科での研修が可能。 2年目：頭頸部外科に3か月以上在籍する。残りの期間はCCM勤務の他、関連診療科での研修が可能。

#### ●レジデント3年コース

研修目的・内容	頭頸部がん専門医の取得を目指す。 頭頸部外科および関連診療科を回る。
研修期間・ローテーション	1年目：頭頸部外科に3か月以上在籍する。残りの期間はCCM勤務の他、関連診療科での研修が可能。 2年目：頭頸部外科に3か月以上在籍する。残りの期間はCCM勤務の他、関連診療科での研修が可能。 3年目：原則として6か月以上頭頸部外科に在籍する。

### § その他のコース

#### ●レジデント短期コース

研修目的・内容	希望される期間で頭頸部外科の研修に取り組む。
研修期間・ローテーション	6か月～1年6か月：頭頸部外科研修を行う。 *6か月を超える場合は病院の規程に基づきCCM研修を行う。

#### ●専攻医コース（連携施設型）

研修目的・内容	耳鼻咽喉科専門研修プログラムに則り、短期間の研修で基本的ながんの診療経験を積む。
研修期間・ローテーション	原則3か月から6か月：頭頸部外科研修を行う。6か月を超える研修を希望する場合は要相談。